HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究室報
Citation	独語独文学科研究年報, 16, 67-69
Issue Date	1990-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/25801
Type	other
File Information	16_P67-69.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

1988年度論文題目

卒業論文

小　黒　康　正：『魔の山』における方向規定（Orientierung）

坂　本　佳寿子：グリム童話の残虐性について

原　田　教　子：アーデルベルト・フォン・シャミッソー
『影をなくした男』について

修士論文

海老塚　冬　衛：数量詞に関する一考察

田　中　　慎：Zur Funktion der Spaltsatzkonstruktion im Deutschen
（ドイツ語の分裂文構造の機能について）

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため下記の事業を行なう。
   1)　機関誌「独語独文学科研究年報」を毎年1回発行する。
   2)　合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会員は北海道大学文学部独語・独文学研究室の教官・院生（学生も含む）ならびにその趣旨に賛同する者によって構成される。
5. 本会員は上の活動の遂行のため所定の会費を支払う。
6. 本会は1名の会長と若干名の幹事をおく。幹事は会計および編集委員を兼任する。
7. 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。
8. 本会の事務所は北海道大学文学部独語独文学研究室におく。
9. 本会に賛助会員をおく。

研究室行事記録

◎1989年2月17日に、1988年度卒業論文・修士論文発表会が文学部310号室で行なわれた。

◎1989年度には、「土曜会」と銘打って、石原助教授を囲み、4回のコロキウムがもたれた。

◎1989年には文学部で下記の研究会がもたれた。

- 4月26日

  塩　谷　幸　子:「省略に関する考察」(1)

- 7月25日

  塩　谷　幸　子:「省略に関する考察」(2)

- 7月27日

  江　口　　豊:「Liest sich der Satz komisch ?」

- 9月16日

  塩　谷　幸　子:「省略に関する考察」(3)

- 9月28日～30日

  北海道大学言語文化部、Goethe-Instiut、北海道日独協会ドイツ語講座委員会との共催でDeutsch-Lehrer Seminarが北海道大学言語文化部で開催された。

〈研究発表〉

◎1989年には下記の学会で会員の発表が行なわれた。

- 第29回北海道ドイツ文学会（7月22日、函館）

  中　川　勝　昭　「リルケにおける幼児の理想化について」

〈会員動向〉

◎1989年8月に、最上英明氏がMünchen大学から留学を終えて帰国した。

◎9月には田中慎氏が留学のためMünchen大学へ出発した。

研　究　室　報

講義題目（1989年度）

学　部（学部・大学院共通を含む）

独語学概論		植木迪子
独文学史概説		青柳謙二
独語学(1)	言語の構造 (1)	植木迪子
独語学(2)	言語の構造 (2)	植木迪子
独語学	近代の言語と文学——17世紀の場合——	轡田収
独語学	Deutschunterricht für Fortgeschrittene	Ulrich Beil
独文学	近代ドイツ抒情詩の特質	新妻篤
独文学	Trivialliteratur – Volkstümliche Theaterstücke	Johann Ortner
独文学	Von Juden und über Juden : Gedichte, Novellen, Essays aus zwei Jahrhunderten	Claudia Beil
独文学	Probleme des Dramas	石原次郎
独語学演習 (1)	Probleme der Lexikologie (2)	植木迪子
独語学演習 (2)	独語学の基本	植木迪子
独文学演習	Einige moderne Erzählungen und deren Interpretationen	青柳謙二
独文学演習	Hohendahl : Geschichte der deutschen Literaturkritik	石原次郎
独文学演習 (1)	Der trunkene Gott : Die Wiederkehr des Mythos in der Literatur um 1800	Ulrich Beil
独文学演習 (2)	Jenseits der Dialektik : Die Spur des Einen in der Philosophie des Neuplatonismus	Ulrich Beil

大学院

独文学演習 (2)	Methodenprobleme der deutschen Literaturwissenschaft	青柳謙二
独文学演習 (3)	Konstruktivismus oder Dekonstruction ? Zur Literatur-theorie der Gegenwart und ihrer Anwendung	Ulrich Beil
独語学特殊演習		植木迪子
独語文特殊演習		青柳謙二

会　員　名　簿

◎青柳謙二	石川克知	石橋道大	石原次郎
伊藤祐紀子	岩井　洋	岩田　聡	植木迪子
梅津　真	江口　豊	海老塚冬衛	小川　了
小澤幸夫	加藤寛蔵	川島淳夫	川東雅樹
岸川良蔵	佐藤　厚	佐藤修子	佐藤俊一
塩谷幸子	※塩谷　饒	清水　誠	神　久聡
鈴木将史	瀬川修二	高橋　修	高橋吉文
○田中　慎	田中　剛	対馬　晃	寺田龍男
○中川勝昭	名執基樹	西川智之	藤本純子
三浦國泰	最上英明	森田一平	山田恵子
山田善久			

◎は会長　　○は幹事　　※は賛助会員

独語独文学科研究年報　第16号

1990年1月発行

発行者　北海道大学ドイツ語学・文学研究会

編集委員　田中　慎　中川勝昭

連絡先　北海道大学文学部独語独文学研究室内

060　札幌市北区北10条西7丁目

印刷所　北大印刷